

2. これからの区立幼稚園のあり方

(1) 生きる力と豊かな心の育成

幼稚園は、小・中学校などと同様に学校教育法に基づく学校であり、子どもが初めて出会う学校です。区立幼稚園では、同年代の幼児との集団生活を通して、基本的な生活習慣を身に付け、思いやりのある心を育てるなど、幼児期にふさわしい教育を行っています。また、「遊び」を心身の調和のとれた発達の基礎となる重要な学習と位置付け、幼児の感性や思考力、創造力をはぐくむことができる教育活動を展開しています。今後も、小学校教育との関連を踏まえ、さらに教育内容を充実していきます。

(2) 障害児保育

区立幼稚園の障害児保育は、北大泉幼稚園、光が丘あかね幼稚園、光が丘わかば幼稚園の3園で開園時から実施しています。今後は、実施園の拡大を検討するとともに、指導の充実に努めます。

(3) 子育て支援

区立幼稚園では、地域に開かれた幼稚園を目標に、未就園児保育や講演会などの子育て支援を実施しています。これは、子育てに対する不安感や孤立感をかかえる親の増加など、子どもを取り巻く環境が大きく変化しているためです。今後も、子ども家庭支援センターや保健相談所などと連携を図り、子育て中の親への支援を積極的に行います。また、園児と小・中学生や高校生の交流など、次世代を担う子どもたちが触れ合う機会を充実していきます。

(4) 私立幼稚園との連携

現在、区の幼稚園教育は、区立幼稚園（5園）と私立幼稚園（42園）が担っています。今後、区立幼稚園では、区全体の幼稚園教育の充実・発展のために、私立幼稚園と協力して研究や研修を行うなど、さらに連携を深めていきます。

3. 適正配置

北大泉幼稚園は、最初の区立幼稚園として、昭和50年に開園しました。同園は、所在地の北大泉町から通園する園児が約半数を占め、また、近年は高い充足率を保っています。

光が丘地区4園は、光が丘団地の開発に伴う同団地の就園需要を満たすため、昭和60年から平成元年にかけて順次開園しました。その後、光が丘地区から通園する園児は、同地区の幼児人口に比例して減少しています。一方、光が丘周辺地域の幼児人口の増加の影響などから、光が丘地区以外から通園する園児が増加しています。しかしながら、光が丘地区4園の充足率が62.3%（平成16年度）であることや各園が比較的近い距離にあることを考えると、統合により、適正な園数にする必要があります。園児数の動向を踏まえ、今後、光が丘地区4園の適正配置を進めます。

(1) 適正配置の時期

園児数の見込みおよび保育室（教室）など施設の状況により、適正配置が可能な場合は、一定の準備期間を設けたうえで実施します。